

「北方領土返還要求中央アピール行動『アピール行進』」 出発式における英利アルフィヤ外務大臣政務官挨拶文

本日御参集の皆様におかれましては、日頃から、北方領土問題の解決に向けた環境整備、国民世論の啓発と結集のため、様々な活動に御尽力いただいております。心から感謝申し上げます。

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵略は、国際秩序の根幹を揺るがす暴挙であり、我が国は、引き続き、G7を始めとする国際社会と連携しつつ、ロシアに対して厳しい制裁を行うなどの取組を進めてまいります。

こうした中で、日露関係は引き続き厳しい状況にあります。しかし、北方領土問題は日本がロシアとの間で抱える最大の懸案事項です。政府として、四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持していく考えです。

また、漁業や我が国周辺の安全に係る問題のように、日露が隣国として対処する必要のある事項について、ロシア側への働きかけを含め、引き続き適切に対応してまいります。

そして、北方四島交流・訪問事業の再開は、日露関係における最優先事項の一つです。御高齢となられた元島民の方々の切実なお気持ちになんとか応えるべく、ロシア側に対し、今は特に北方墓参に重点を置いて、事業の再開を引き続き強く求めてまいります。

北方領土問題の解決には、国民一人一人が、この問題への関心と理解を深めること、また、若い世代への啓発を進め、返還要求運動の後継者を育成していくことが不可欠です。

本日の「アピール行進」を通じ、皆様が全国民に訴えかけることは、政府に対する強力な後押しとなります。外務省としても、これまで以上にロシア側への働きかけと啓発事業に積極的に取り組んでまいります。

北方領土問題の解決に向け、力強い御支援と御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

(了)